

木造高校 全国高校生かるたグランプリ4位入賞



木造高校競技かるた部

「第5回全国高校生かるたグランプリinつがる市」が5月2、3日、松の館で行われました。今年で5回目を迎えた大会には、地元木造高校、静岡東高校、一昨年の優勝校・膳所高校（滋賀）、安積黎明高校（福島）に加え、石川、神奈川、埼玉、山形の各県選抜チームの8チームが出場しました。各チーム5人による2日間の総当たりリーグ戦の結果、静岡東高校が初優勝を飾りました。昨年に続き連覇を目指した木造高校は4勝3敗で第4位の成績でした。部長の工藤亜月さん（3年）は「力が入りすぎ、自分たちの良さを発揮できなかった。もっと練習して7月、8月の全国大会では優勝を目指します」と雪辱を誓いました。



選手を歓迎するため会場入口に毎年生け花作品を提供している浅草遠州一瀧流の家元・小笠原一秀さん

【試合結果】①静岡東6点（6勝1敗）②安積黎明6点（6勝1敗）③石川県選抜5点（5勝2敗）④木造4点（4勝3敗）⑤山形県選抜3点（3勝4敗）⑥埼玉県選抜2点（2勝5敗）⑦膳所1点（1勝6敗）⑧神奈川県選抜1点（1勝6敗）
[1、2位は主将の勝数、7、8位は選手の勝数による]

親子で百人一首に親しむ

第1回小倉百人一首かるた大会

競技かるたのおもしろさを知ってもらおうと、5月1日、第1回小倉百人一首かるた大会が松の館で行われ、市内外から8チームの親子ら16人が参加し、競技を通して百人一首に親しんでいました。この大会は、全国高校生かるたグランプリの5回目の節目に合わせ、競技かるたの普及と競技人口の拡大を目的に市民を対象とした記念事業として初めて行われました。

木造高校生の模範競技では、上の句が読まれた瞬間に札を取り合うスピードに参加者はびっくりしていました。その後、参加者は2人1組となってトーナメント形式で対戦し、真剣な表情で札を取り合っていました。



読み手の声に集中し札を取り合う参加者

自然を満喫し心地よい汗を流す

おやこウォークin地球村



「2010つがる市おやこウォークin地球村」が5月2日つがる地球村で開催され、市内外から親子連れやウォーキング団体のメンバーなど約650人が参加しました。

ゴールデンウィークの恒例行事となったおやこウォークは、今回で7回目。この日は好天に恵まれ、参加者は3^{キロ}、6^{キロ}、10^{キロ}、15^{キロ}の4コースに分かれ、咲き始めた桜や新緑の景色を満喫しながら、自分のペースでゴールをめざし、心地よい汗を流しました。

また、会場内ではウェルカムライブやお楽しみ抽選会なども行われ、参加者は楽しい1日を過ごしました。

10^{キロ}コースに出発する参加者たち

住みよい環境のために役立てて 廃油せっけんの売上金を寄付



寄付に訪れた瑞穂小の児童ら

5月7日、瑞穂小学校（一戸瑞校長）の5年生児童代表9人が市役所を訪れ、廃油から作ったせっけんを販売した売上金7,533円を市緑化推進委員会（会長・福島市長）に寄付しました。

同校の5年生50人は昨年度、総合的な学習の一環で水環境について学び、古田川をテーマにグループに分かれて体験学習を行いました。その中で生活排水のもととなっている使用済みの油を各家庭などから集め、約100個のせっけんを作り、授業参観日に販売しました。

この日訪れた9人の児童のうち高橋幸汰君と須藤南さんが「住みよいまちのため、環境のために役立ててください」と寄付金とせっけんを福島会長に手渡しました。福島会長は「皆さんの善意に応えられるよう緑化推進のために使わせていただきます」と話していました。

市民一丸となって安全・安心のまちづくりを

春の安全・安心まちづくり推進大会が4月21日、松の館で開催されました。

同大会には、防犯ボランティア団体や警察官ら約90人が参加しました。防犯指導隊総隊長の手嶋成信さんが「防犯ボランティアの中核として、住民や関係機関と連携しながら安全で安心できるまちづくりに取り組みます」と決意表明しました。

また、JUMPチームを代表して木村友彦君（木造高3年）と小島瑤平君（柏中3年）が「万引き防止活動、自転車セーフティ・ツーブロック運動、あいさつ運動を通じて非行防止に努めます」と力強く宣言し、大会終了後には、パトカーを先頭に自主防犯パトロール隊が、青色回転灯を装着した車両で市内の巡回に出動しました。



力強く宣言する（左から）小島君と木村君

多年の活動、功績が讃えられる



小笠原金美さん



葛西弘和さん

人権擁護委員として、多年にわたり国民の人権擁護と人権思想の普及高揚に貢献した功績が讃えられ、小笠原金美さん（木造菊川）と葛西弘和さん（木造林）が仙台法務局長から感謝状が贈られ、5月11日に青森地方法務局五所川原支局において、同支局長から伝達されました。

人権擁護委員とは、法務大臣が委嘱する民間のボランティアで、地域の中で人権思想を広め、市民の皆さんの人権相談に応じます。相談は無料で秘密は厳守されます。本市では9人の委員が委嘱されています。



迫力ある生演奏に魅了

4月23日、航空自衛隊北部航空音楽隊による音楽鑑賞会が富苑小学校で開催され、全校児童や父母ら200人が音楽隊の迫力ある演奏を楽しみました。

同音楽隊は、北海道と東北3県の地域で主に音楽活動を展開しており、地域を代表する吹奏楽団として親しまれています。この日は人気アニメソングやヒット曲などおなじみの楽曲が披露され、児童らは大きな声で一緒に歌いました。また指揮者体験も行われ、挑戦した3人の児童は緊張した面持ちで指揮棒を振り、音楽隊の指揮をとりました。最後に音楽隊の演奏に合わせて児童らが校歌を元気に歌いました。

春の山野草を鑑賞

屏風山植物愛好会（工藤鉄男会長）が主催する「春の山野草展示会」が5月2、3日の2日間、木造中央公民館で開催され、市内外から1,000人以上の愛好者が訪れていました。

今回で29回目となる展示会には、会員が丹精込めて育てた約100種類、225鉢の山野草が展示され、来場者は会場いっぱいに並べられた鉢に見入っていました。工藤会長は「山野草の全国誌にも紹介され遠くは茨城県や仙台市からも見に来てくれました」と話していました。また、余剰苗の即売会も行われました。



ベンセ湿原へ気持ち良く訪れて

木造地区老人クラブの会員ら約50人が5月28日、ベンセ湿原周辺の清掃奉仕活動を行いました。清掃活動は、ベンセ湿原を訪れた観光客に気持ち良く楽しんでもらいたいと毎年行われています。会員らは駐車場や歩道周辺の草刈りやごみ拾いを行いました。

ベンセ湿原を回る定期観光バスツアーは6月1日から30日まで毎週月曜日を除き1日1便2コースを日替わりで運行しています。

品質の良い米づくりを

5月15日、福島市長はじめ県普及分室の職員や農協関係者らが、森田町下相野地区の水田を巡回して田植え農家を督励しました。

督励は品質の良い米作りを推進するため、毎年田植えの時期に行われています。この日福島市長は、つがるロマンを作付けしている成田信義さん、盛邦仁さんらの水田を訪れ、田植えの作業状況を聞き取り、概ね順調に進んでいることを確認しながら「農作業中の事故には注意して良い米を作ってください」と呼び掛けていました。



多彩な映像表現！電子情報ボードを導入

市教育委員会はこのほど、学校での情報通信技術の環境を整備しようと市内の全小・中学校にプラズマ電子情報ボード（電子黒板）を導入し、教職員向けに説明会を開催しました。

同ボードの特徴は、マウスを使ったパソコン操作がボードの画面上で指や電子ペンで操作ができます。また、画面上で編集した内容をパソコンに保存したり、インターネットや音楽、動画を活用した教材が使用でき、英語の発音の授業など多彩な学習方法に取り組むことができます。



元気に楽しく「生涯学習」

つがる市長寿大学開講式が5月24日、松の館で開催されました。今年を受講生は118人で、開講式では葛西学長（教育長）が各地区代表者に学生証を手渡し、学生を代表して小山内兼一運営委員長が「大学で学んだことを地域活動に役立て、クラブ活動にも活発に参加しましょう」と決意を述べました。

開講式終了後には、第1回目の学習会が行われ、五所川原市の館岡屏風山氏がスコップ三味線の演奏や体験談を披露しました。また実際に演奏する体験も行われ“学生”の皆さんは積極的に挑戦していました。

ごみのないきれいなまちを

5月8日、木造地区でコミュニティ実行委員会による「春のごみゼロ運動」が行われ、町内会や子供会、老人クラブなど23団体約200人が参加しました。

市役所前で行われた出発式では、同実行委員会白戸英行会長、福島市長が挨拶し、その後各団体で道路脇や水路周辺の空き缶や紙くすなどのごみを拾い、環境美化活動に奉仕しました。



剣道の精神を社会奉仕活動に

木造剣礼会（松本政樹代表）は、剣道で培った精神と身体を社会奉仕活動に役立てることを目的に、5月15日、活動場所である木造体育センター周辺の清掃活動を行いました。この日は会員25人が定例のけいこの後、ごみ袋を手に空き缶や空きびんなどのごみを拾い集めました。参加した会員は「いつもお世話になっている場所や人に感謝の気持ちを伝えたい」と話していました。会では今後も毎月1回土曜日のけいこの後に清掃活動を行う予定です。